

## 1-1 SV (第1文型) の基本的意味とは

— 「存在」「往来・発着」だけではない

### 1 目的語も補語もとらない文型

第1文型 (SV) とは、補語や目的語もとらずに、最低限の要素として主語 (S) と動詞 (V) のみで成立する文型のことです。

- He smiled. 「彼はにっこりと笑った」  
S V
- Time flies. 「時はあっという間に経つ → 光陰矢の如し」(諺)  
S V

補語も目的語も必要とせず、主語と動詞だけで成り立つことから、この文型の動詞を「完全自動詞」と呼びます (逆に SVC の第2文型動詞は補語がなければ成立しないことから「不完全自動詞」と呼びます。ただし、本書ではこれ以降、この「完全自動詞」や「不完全自動詞」といった用語は用いないことにします)

ただし、実際には純粋に SV だけで用いられることは少なく、多くの場合には副詞や副詞句などの修飾語(句)を伴います。(修飾語(句)は英語では Modifier となり、以後、頭文字の M を用いて表します)

- A cactus grows well in a desert ecosystem.  
S V M=副詞 M=副詞句  
「サボテンは砂漠でよく生育する」
- The earth revolves around the sun.  
S V M=副詞句  
「地球は太陽の周りを回る」 \*revolve 回転する、公転する

### 2 SV だけでは成立しない場合も

しかも、この文型の場合、副詞句をとってしまうと成立しないものが多々あります。

- He lives in Yokohama. 「彼は横浜に住んでいる」  
S V M ⇨ He lives. (???)
- This road will lead to the station. 「この道を行くと駅に出ます」  
S V M ⇨ This road will lead. (???)

これらの場合では、副詞句は単なる修飾語とはいえ、文を成立させるのに必要な要素です。しかも、これは名詞や形容詞などの補語 (C) を必要とする第2文型 (SVC) とも異なります。この問題については p.051 であらためてふれます。

### 3 第1文型をとる動詞の基本的意味

この文型をとる動詞の意味は、主なものとしては、be 動詞を代表とする「存在系」や、go と come を代表とする「移動系」が多いことは確かです。以下に代表的なものをあげましょう。

#### ■ 存在系：居住・滞在など

be (ある) exist (存在している)  
live (暮らしている) reside (居住している)  
stay (滞在している) lie (横になっている)  
remain (残る), etc.

- Animals of these kinds don't **exist** in Japan.  
「この種の動物は日本には存在しない」
- Where did you **stay** last night?  
「夕べはどこに泊まったの?」
- If you take 4 from 10, 6 **remains**.  
「10から4を引けば、6が残る (10引く4は6)」

#### ■ 移動系：

##### ① 「往来・発着」

go (行く、離れていく) come (来る)  
walk (歩く) run (走る、流れるように移動する)  
depart (出発する) arrive (到着する)  
swim (泳ぐ) fly (飛ぶ) jump (跳ぶ), etc.

## ② 「出現・消滅・開始・継続・終了・変化・増減」

appear (姿を現す)	disappear (姿を消す)
arise (生じる)	die (亡くなる)
start / begin (始まる)	finish / end (終わる)
rise (上昇する)	fall (落下する)
grow (成長する)	decline (衰退する)
increase (増大する)	decrease (減少する)
continue (続く)	last (もちこたえる)
move (移動する、引越す)	revolve (回転する)
evolve (進化する)	develop (発展する)
change (変わる)	follow (後に続く), etc.

- The sun **rises** in the east.  
「太陽は東から昇る」
- School **begins** at eight.  
「学校は8時に始まる」
- Human species **evolved** from the apes.  
「人類はサルから進化した」
- Controversy **continues** over food safety.  
「食の安全をめぐって議論が続いている」

## 4 すべてが存在・移動系とは限らない

ところで、この型の動詞の多くは上で述べた「存在」や「移動」の系統のものが多いことは確かですが、すべてがこの意味になるわけではありません。

- Every game **counts**. 「すべての試合が大切だ → 捨て試合などはない」  
これはSVから成る純粋な第1文型ですが、動詞countは「重要である」という意味で用いられています。「重要である」という意味は「存在」でも「移動」でもないことは明らかでしょう。「重要である」は動詞matterでも同じような意味を表すことができます。

- Age doesn't **matter**. 「年齢は問題ではない」

S V

以下のケースもSVもしくはSV + Mの第1文型ですが、どれも存在・移動系とは言えないものばかりです。

- He **worked** late at night.  
「彼は遅くまで働いた」
- I would often **play** in the park when I was a kid.  
「子供の頃よくこの公園で遊んだものだ」
- The sun **shines** brightly.  
「太陽は明るく輝く」
- He **smiled** broadly.  
「彼は満面の笑みを浮かべた」
- Honesty does not always **pay**.  
「正直は割に合わないことがある」 \*pay 割に合う
- All the plans have **succeeded**.  
「計画はすべてうまく行っている」
- I see what you mean, but I don't **agree**.  
「仰ることはわかりますが、同意しかねます」

学習参考書などで、「第1文型 (SV) で使われる自動詞の意味は『存在・移動』しかないの、わからなかったらどちらかの意味に当てはめればよい!」などと断言している本をちらほら見かけますが、そう決めつけるのは大変危険だと言えます。

## まとめ

- SV (第1文型) の動詞とは目的語 (O) も補語 (C) も必要としない動詞
- 存在・移動系の意味が多いが、すべてではない  
☞ 決めつけは危険!